

高田 本山 たより

国宝御影堂前で、
薪能が上演されました。

薪能

薪能

114



仏教文化講座のプログラム

於：高田会館ホール

8/1 法主殿御親講

8/2 親鸞仏教の師弟像

龍谷大学名誉教授

川添泰信先生

8/3 仏教徒として現代を如何に生きるか

中村元東方研究所専任研究員

奈良修一先生

8/4 宇宙といのち

宇宙物理学者

池内了先生

8/5 宗祖の往生・成仏観

高田短期大学学長

栗原廣海先生

※申し込み不要・聴講無料

また暑い夏がやってきます。古来この季節には夏安居といって、暑い外を歩かず、ひとところに集まって研鑽をつむ習慣がありました。高田本山では第九十二回となる仏教文化講座が開講されます。是非、ご一緒に聴聞いたしましょう。

夏の風物詩といえはお盆と思われる方も多いのではないのでしょうか。高田本山ではこの時期に盂蘭盆会ではなく「歓喜会」がとまります。念佛成佛でございますから追善供養ではなく、お念佛のご縁にあえた喜びということで歓喜の法会をおとめいたします。

●行事案内

六月二十三日・二十四日

高田派青年のつどい

七月三十日～三十一日

歴史丸ごと体験塾

(小学生教化合宿)

八月一日～五日

第92回仏教文化講座

八月十四日～十六日

歓喜会

九月二十日～二十六日

讃佛会



WEB VERSION

WEB VERSION

こんな行事がありました



1 3/26-28 中学生教化合宿

1 中学生教化合宿

三重からバスで関東方面にお出かけして合宿が開催され本寺や関東別院をおとずれました。

2 桜咲く国宝専修寺

国宝を記念した行事が開催されました。あわせて、特別拝観もあり賑わいました。

3 釈迦三尊法会

年に一度の山門上の釈迦三尊へのお参りです。多くの方に登楼のために行列いただきました。



2 3/31-4/1 桜咲く国宝専修寺

4 はなまつり

こどもたちによって白象が寺内町を曳き廻されはなまつりが開催されました。

5 興学布教研究大会

併せて写生大会の表彰も行われ、高田本山賞に山崎寛宗くんが選ばれました。

6 檀信徒研修会

この大会では真宗学会に向けた発表を中心に3名のお話があり、仏教の深い教義にふれることができました。



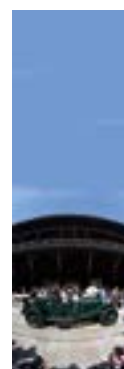
3 4/8 釈迦三尊法会



4 4/22 はなまつり



6 5/17 第66回檀信徒研修会



6 檀信徒研修会

誓元寺衆徒の栗原妙直先生に「称名念仏」という講題でお話いただいた研修会は百名弱の参加者でホールは満杯でした。

7 親鸞聖人降誕会

式典では、男性祖師寿のお祝いがあり二百名以上の申込みがありました。



7 5/21 親鸞聖人降誕会



5 4/29 興学布教研究大会

WEB VERSION

WEB VERSION

特集



開業別院法嚴經承法会に際して

二〇一三年十月二十七日に本山で法主顯承式を行ってから、早いもので既に四年半が経りました。この間に世界も日本も、そして高田派でも様々な動きがありました。国際情勢は時々刻々激変の度合いを増して来ていますし、日本の国際的な孤立状況も際立って来しました。このような混沌とした世相の中にありながら、高田派には過期的な出来事がありました。ご承知の通り、昨年十一月二十八日、本山牟修寺の西御堂が三重県内の建造物としては初めて国宝に指定されるに及びました。これにより、高田派も牟修寺も全国的な知名度が少しは増すのではないかと期待しているところでです。

さて、私共高田派は御開山親鸞聖人が下野高田に専修寺を創建したことから始まる関東教団です。本山が伊勢一守田に移ってから五百年近い星霜を経た今でもそれはいさかも変わることなく、本寺専修寺は高田門徒の心のふるさととなっています。そして現代、高田派および専修寺は関東の懸念な新門徒の皆様によって支えられています。関東は高田派にとって色々な意味で生命線なのです。西御堂国宝指定、九月の国立劇場での高田派声楽公演とも相俟って、関東の御門徒の皆様がさらに自覚と誇りを持って、高田念仏を継承・伝持していただくことを心から念ずるものです。

平成三十年五月十二日

高田山學悟寺第二十五世

慈祥夢

5/12 関東別院法灯継承法会勤修

<http://www.takadaha~kanto.com/>



「法灯継承法会」を関東別院にて
執り行えたことに厚く御礼申し上げます。

「法灯継承法会」は関東別院にとって大切な節目となる法会です。この日を迎えるため、朝早くから多くの職員、スタッフが立ち回っておりました。

五月十二日、前日までのお天気とはうって変わつての晴天となり、透き通る空と和やかな空氣に包まれた最良の日となりました。

午前中には、「永代経法会」が行われ、午後におつとめされる「法灯継承法会」をお迎えするため、多くの方々のお力を拝借し、関東別院みな一丸となり取組みました。本堂には五色幕を飾り、山門を抜けると八尺の大きな看板に花を彩り、山門から客殿入口の間に受付を設けました。

さらに祝賀の気持ちを表して、山門脇には草履、念珠、反物、和菓子などの露店が並び、その賑わいある風景に檀家さん、来賓の方々も楽しそうにしておりました。

来賓には本寺輪番、東京・神奈川・栃木・茨城のご住職と副住職、さらに関東別院の役員と婦人会にお越しいただき、多くの方々にお祝いをいただきました。

法主殿、前法主殿、そして宗務総長が下車され、山門をくぐりゆつくりと御殿へ向

かわれました。御二方が揃われて関東別院を歩む姿はこれまでになく、希少な光景を拝見したと今も感じております。

法会の開始までに、関東別院役員、婦人会の方々、御対顔がございましたが、皆さま緊張の面持ちであつたことが鮮明な記憶として残っております。両門様同時に御殿で御対顔されることが初めてであり、もちろん関東別院としても初めてのことでした。

法要の始まりには、奏楽でお迎えしましたが、雅楽奏者もこの日のために練習に力をいれており、見事な調べでした。今回の雅楽奏者たちは、本年九月に国立劇場の声明公演に臨みます。こちらも楽しみです。やがて喚鐘が鳴り渡り、出勤者が着座。その後、表白が始まりました。

「新しい法主を頼みとし、たじろぐことなく堅固の信心に徹して、道俗共に和して宗門の興隆を期すこと」を望まれており、御開山聖人の説かれたかたい信心をもつて隆々と宗門が和することが肝要です。この願いの法灯を、法主殿とともに護るという大きな期待を感じ、そのお言葉に応えるべく精進いたしたく存じます。

また、前法主殿のお声に心を打たれました。これまでも報恩講で嘆徳文の御親読、御調声のお声が御堂に響いておりましたことを思い出しました。

法会においては前法主殿が左側より、そして法主殿が右側よりお出ましになり御親修されるお姿に法灯継承の重きを感じました。その後御親教を拝聴し、三十数年前私が青年会に参加していた当時、法主殿より御指導を仰ぎ、またお話しさせて頂き、時に酒席を共にさせて頂いた懐かしき時間を感じながら、ここに法灯継承の御親教を頂戴して時代の変遷と重ねたご縁が走馬灯のごとく頭をめぐりました。法主殿の所作は、勿論、教義の探求心を見習い、さらに宗門の未来図を御一緒に描けたら幸い願っております。

最後は宗務総長の復演で「法灯継承法会」は終了を迎えました。

法会に引き続き行われた祝賀会では、法主殿・前法主殿よりお言葉を頂きました。両門様ともにお若い時代から関東とはご縁が深く、大切な地域であることをお話しされ、出席者の皆様からも改めて代々に亘るお付き合いを、ありがたく懐かしむ声も聞

かれました。

こうして、貴重なお気持ちをいただくことができ、改めて宗門の節目であり、未来へ船出する羅針盤を確認できた思いでした。その後、東京・神奈川組長・役員、婦人会の方々から、たくさんのお祝いの言葉を頂き、法主殿、前法主殿、宗務総長をお見送りし閉会となりました。ライトアップされた境内、明るく映し出された内陣、御本尊が皆様をお見送りいたしました。

このような大切な法会を、一日に二度も行うことができ、そして無事に終えたことを宗門の皆様にお伝えし、厚く御礼申し上げます。これを節目に関東別院の使命として、開教を拡大するべくより精進してまいります。ご指導のほど、引き続きよろしくお願い申し上げます。

関東別院輪番 花園親弘



「伝道の旅①」

釈尊シリーズ ⑪



鹿野苑での初転法輪の後、さとりしよてんぼうりんのよろこびを得られた五人の出家者達しゅつげしやは、それぞれが釈尊しやくそんより説かれた尊い法とうほう(真理)しんり

を説きひろめる旅へと出立しゅつたつされました。そして釈尊もまた独り静かに歩み出され、以後四十五年間、八十歳で入滅にゅうめつされ

るまで、その両足りょうそくのみで町から町へと遊行ゆぎやうする伝道でんどうのご生涯を送られるのです。

当時の厳しい階級社会に於いて、身分性別を問わず「平等に」説法せっぽうを続けられる釈尊のもとは、瞬く間に多くの佛弟子が誕生します。その中には王族や商人、奴隷達までもが存在し、佛を尊び法を敬う集団サンガ(僧伽)は、日を追うごとに大きくなり、現在まで受け継がれています。このように類い稀なる釈尊の伝道は「隨機ずいき(対機)説法」と讃えられます。

機とは人間の氣質きしつを示し、一人ひとり異なり、また縁えんによってどのようにでも姿を変え、為、私たちの悩みや不

安、苦しみや悲しみの受け止め方や解決の道は一樣いちやうとはいきません。

そこで釈尊は老若男女すべての人々に対して我が子の様に寄り添われ「平等に」説法をされました。それは機きをあきらかに見通し、それぞれの縁えんに応じて真理を説く姿であり、私の「苦悩を除く」のではなく「苦悩が生かされる」本当の救いをあらわされたのです。

これが、言葉も及ばぬほどの真理を伝える唯一の手立てであり、後に「八万四千の法門」と称されます。

こうして釈尊は、ひとりでも多くの人を救い、そして私を救うべく、歩み続けられたのでした。(教学院第三部会)

WEB VERSION

WEB VERSION

ありがたし

今日の一日も

わが命

めぐみたまへり

天と地と人と

唱歌「夏は来ぬ」で知られる佐佐木信綱翁の辞世の歌です。近代を代表する国文学者、万葉学者であり、大歌人で、その偉業は錚々たる学者や文学者を育てたことから知られています。

鈴鹿市石薬師、真宗高田派浄福寺同行の旧家に生まれ、お念仏の薫習のなかで育ち、九十一歳で往生されるまで、ご恩に感謝する日暮らしがうかがえます。今日の一日のいのちはお恵みです。いのちのはたらきに生かされているのです。そんな感謝の気持ちがあふれて

います。

この歌は「素人の歌かと間違うほどだが、すでに巧拙を超えている」といわれます。「心昏く識寡く、悪重く障り多き」私どもにとつて、当たり前のことそのままだに頂くことは容易なことではありません。それは人知

リレー法話

いのち

津市光善寺住職 堅田光英

の迷妄をこえた、無量寿の如来さまの智慧と慈悲に遇われたからこそのことです。宗祖はこのことを「ご信心」であるとお説きくださいました。大国の指導者が宗教や価値観の違いを否定し、敵対心をあおり、人間を分断する姿を度々見聞き

します。人々の不安を利用して自分中心の世界をつくろうとすることの危険性は過去の歴史が物語っています。それはとりもなおさず私への問いかけとなつて突きつけられます。久遠の昔より承け継がれた、共に生きるいのちを頂き

如来の智慧とは「いのちの一体感」、慈悲とは「痛みとの共有」と聞かせて頂いています。お浄土を憶念し、お念仏申すことは、如来に願われたいのちを生きていることを身に頂くことではないでしょうか。「ああ、生きていく、生かされている」という、無上の喜びが呼び起こされる時、古人は「極楽の余り風」が吹くといいました。その時「天と地と人」は私をつつんで育む、美しく懐かしいものと映るのであると、信綱師の「夏は来ぬ」の歌は教えてくれるようです。

卯の花の 匂う垣根に
時鳥 早も来鳴きて
忍音もらす 夏は来ぬ

WEB VERSION

WEB VERSION

親鸞聖人ご旧跡を訪ねて

第八回 よき坊守

親鸞聖人は僧侶として公然と妻帯したことでも知られています。

このきっかけといわれている出来事が、九条兼実公が法然（源空）上人に、結婚して暮らす普通の

の人たちも修行をする僧と同じように阿弥陀如来に救われるのかと尋ね、救われるのならば、どんな僧侶の方と我が娘を結婚させてそれを示して

くださいとお願いされたのです。

そして、親鸞聖人に師である法然が妻帯せよといわれたことがきっかけだったと知る人は多くはないでしょう。

この娘が玉日姫です。よく知られている親鸞聖人の妻、恵信尼さんを中心とした歴史の中では出てこないことが多い女性ですが、ここ法性寺小

御堂西岸寺には玉日姫の墓地もあり、近年の発掘ではご遺骨も発見され、その信憑性が高いといわれています。

同時に玉日姫が恵信尼と出家して名を改めたという説や、関東でも聖人のそばにおられたという説など諸説あり、茨城の結城にも玉日姫のお墓とされる場所があるそうです。

真宗のお寺では、お嫁さんを坊守といいます。その語源は、法然上人が結婚された玉日姫をご覧になって「よき坊守なり」と褒められたことがはじまりといわれています。

西岸寺は京阪藤森駅より徒歩5分です。

（山川蓮生）



法性寺小御堂・西岸寺



玉日姫御廟所

汗を流して清掃奉仕

このほか、寺内町の清掃活動として環濠清掃が行われました。

ご奉仕ありがとうございました。（敬称略・奉仕日順）
 三月 西信寺・勝楽寺・慈光寺・成願寺婦人会・迎接寺・明覚寺
 四月 東海寺・信行寺・長安寺・万年寺
 五月 常念寺・真臺寺・善行寺・満願寺・浄光寺・永福寺
 本山のご奉仕で汗を流しませんか。ひとりひとりの力が合わさり山内が護持されています。お檀家さま・お同行さまだけではなく一般の団体の方にもご来山いただいております。お申し込み、お問い合わせは宗務院庶務部までお願いします。

本山だよりの読者のみなさまにおかれましては、年々巧妙になる各種詐欺などにお気をつけください。少しでもおかしいと思ったら、すぐに「ご家族や警察」にご相談ください。



三重県津市一身田町
2819
真宗高田派本山専修寺

寺院名